

キーワード：情報を受信・発信する力、教科等横断的な情報モラル教育

I 研究について

1 情報モラル教育に関する学校の課題

本校は小中一貫の義務教育学校であり、前期課程と後期課程の学びのつながりを見据えながら指導することができるメリットがある。ICT機器を積極的に活用した授業を全教科等で行っており、児童は日常的にタブレット端末に触れているため、タブレットを操作する技能に優れている。一方で、昨年度児童生徒を対象に行った学校生活アンケートから、メディアの使用時間や利用方法、情報モラルに関する問題や課題が多いという現状である。

昨年度より情報モラル教育研究校の指定を受け、諸課題の解決のために組織的に取り組んできた。具体的には、自分手帳などを使ってICT機器の使用頻度を親子で確認したことで、リスクマネジメントやタイムマネジメントの向上につながった。また、家庭でICT機器の使用時間についてルールづくりをするなど、自己マネジメント力の向上が見られた。さらに、教師の情報モラル教育に対する意識や必要性が高まり、情報モラル教育を取り入れた授業を実践することができた。今年度は、教科等横断的な視点での情報モラル教育を年間指導計画に盛り込み、現職教育のテーマにすることで、全ての教員が自信を持って指導できることを目指す。

今後、前期課程・後期課程の系統性を重視した義務教育学校だからこそできる、計画的かつ継続的な情報モラル教育の実践を深めていきたい。

2 実践概要（授業実践、授業研究会等）

時期	実施内容
5月10日	第1回 校内研修「メディアリテラシー育成事業の方向性」について
6月16日	第2回 校内研修「児童・保護者アンケート」について
6月24日	○ 児童のメディア使用状況及び保護者のメディアに対する意識調査 1回目
6月27日	第3回 校内研修「教材の作成」について
7月11日	○ 研究授業（1年 道徳科） 「さるきちのいたずら（大切なきまり、規則の尊重）」
9月13日	○ 郡山女子大学短期大学部 准教授 山口 猛様による講演会（教師向け）
9月20日	第4回 校内研修「情報教育全体計画」について
9月26日	第5回 校内研修「教材の作成」について
10月18日	○ 研究授業（6年 算数科） 「データの調べ方（データの特徴を調べて判断しよう）」 ○ 郡山女子大学短期大学部 准教授 山口 猛様による講演会 (児童・保護者向け)
11月22日	○ 児童のメディア使用状況及び保護者のメディアに対する意識調査 2回目
12月12日	第6回 校内研修「実践のまとめ」について

II 研究の実際について

1 校内授業研究会での実践等

(1) 第1学年 道徳科「さるきちのいたずら～大切なきまり、規則の尊重～」

6 学習過程

学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ◇評価 情報モラル
(1) 「おしらせばん」の役割について話し合う。 ・大切なことを知らせる。 ・みんなの役に立つ。	5	○ 身近にあるお知らせ板を紹介し、その役割について実感を伴って理解することができるようにする。
(2) 資料「さるきちのいたずら」を読み、話し合う。 ① らくがきをしたさるきちの気持ちについて話し合う。 ・ちょっとぐらいいいかな。 ・もうみんな見たよね。 ・らくがきは楽しいな。 ② さるきちのしたことをどう思うか話し合う。(中心発問) ・見た人がまちがってしまうからよくない。 ① ちょっとぐらいでもだめ。	20	○ 先行オーガナイザーでは、教材のお知らせ板の内容とさるきちがいたずらをするについて説明し、自分ならさるきちに何と言ってあげるか考えながら教材文を読むことができる。 ○ 発問と板書構成を同一にする。道徳的問題場面を明らかにするに、ねらいとする道徳的価値を明確にすることができるようにする。(手立て1) ○ 「みんなもう読んで」「つい書きたくなるよね」と問い返し、それでもきまりをいかに大切にするか気づかせたい。
② さるきちはどうすればよかったか話し合う。 ・約束を守るという強い気持ちをもつ。 ・みんなのことを考える。 ・みんなを困らせないという気持ちをもつ。		○ 約束やきまりを守ることのよさについてとらえさせ、実践意欲を高めることができるようにする。
(3) 自分の生活をふり返る。 自分ならさるきちになんと言ってあげるか考えてワークシートに書く。	10	○ 役割演技を行い、双方の気持ちについて考えることができるようにする。 ◇ 公共物を使うときに大切にしたいことに気づき、約束やきまりをしっかり守ろうとする実践意欲をもつことができたか。(発問、ワークシート)
(4) 教師の説話を聞く。	10	○ 「ひろげよう」を活用するとともに、身近なインターネットの活用例を紹介し、それぞれ約束やきまりがあることを理解することができるようにする。(手立て2)

① 約束を守ることを

情報モラルへ

いたずらをしてしまった時の影響を考えさせることで、きまりを守ることの大切さに気付くことができるようにする。情報モラルへの意識付けとなる授業を目指した。みんなの目にふれる物にいたずらをした影響を考えることで、インターネットとの関連を図るようにした。

情報に関する約束やきまりを守ろうと判断することの大切さについて、自分ならどうするか考え、ロールプレイを行い、自分事として考えることができた。



② インターネットクイズ

児童の実態に合わせ、イラストを活用してインターネットクイズを行った。教科書の資料に加え、身近なインターネットの活用例を紹介し、それぞれ約束やきまりがあることを○×クイズにしたことで、理解しやすくなり、インターネット上におけるルールやマナーについても考えることができるようにした。



○×クイズの実践

インターネットクイズの一部

(2) 第6学年 算数科「データの調べ方～データの特徴を調べて判断しよう～」

学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ○評価 情報モラル
1 本時の課題をつかむ。 表の8の字並びの大会で優勝するクラスを予想するには、どうすればいいだろうか。	5	○前時までの学習で、データの複数の特徴を調えて考察していた考えなどを取り上げ、本時の導入につなげる。 ○児童の言葉をいかにしながら課題文をつくることで興味・関心を高めさせる。
2 問題場面をとらえ、データを整理し、表にまとめる。 ・いちばん多い回数 ・いちばん少ない回数 ・平均値 ・中央値 ・65回以上の度数の割合 ・度数が多い階級	5	○ドットプロット、度数分布表やヒストグラムやノートなど前時までに学習したデータを活用させ、活用させる。(平立て1) ○T1:全体的に机割指導し、その後の優勝予想を考えながら、表を整理するように促す。 T2:下位児童に対し、どのデータを使えば表が完成できるかのヒントを与える。
3 データをもとに自分の考えを基にどのクラスが優勝するの予想する。 ・1組 理由 平均値も最頻値も中央値も同じだから、本書にも安定して記録が出せそうだから。 ・2組 理由 65回以上の度数の割合が一番高いから。 ・3組 理由 いちばん多く勝んだ回数が多いから。	15	○自分の意見と理由をワークシートに記入させる。その際、意見と理由が明確になるようにどのデータを使用したのか確認させ、理由を明確にさせる。(平立て1) ○情報モラルや問題解決の過程が妥当であるかを別の観点や立場から批判的に考察させる。(平立て2) ○データをもとに、優勝するクラスを予想し、自分の考えを持つことができるか。 (ノート) ○T1:一つのデータをもとに予想することで妥協するかどうかについて、批判的な考察もでき机割指導するとともに、いくつかのデータを明確にさせる。 T2:下位児童に対し、理由などがあればどのクラスが優勝しそうか予想させる。
4 考えを発表し		
5 本時のまとめをする。 それぞれのデータの持ちようをもとに理由を明確にすれば、優勝するクラスを予想することができる。		
6 本時の授業を振り返り、次時の見通しを持つ。 ・たくさんのデータを見比べることも大切。 ・理由を明確にすることで、説得力のある意見が書ける。	5	○インターネットで情報を集めるときは、筋路について批判的に情報をとらえることが大切であることを理解させる。(平立て2) ○本時で学習したことを振り返り、わかったこと・できたことをノートに記入させる。 ○新たな問題を設け、次時への見通しを持たせる。

まとめの段階で
情報モラルにふれた

インターネットで情報を集めるときは、筋路について批判的に情報をとらえることが大切であることを理解させる。(平立て2)

① 教科等横断的な情報モラル教育

教科等横断的な情報モラル教育とは、教科(国語科や社会科など)の授業の一部に情報モラル教育の視点を取り入れ、どの教科でも情報モラルを行う取り組みである。

今年度は、現職教育の研究テーマとすることで全ての教員が指導できることを目指した。

特定の教科の一部の単元で必ず実践するというのではなく、いつでも、どの授業の中でも情報モラル教育を実践できることを目指し、各教科の学習活動に取り入れることで可能になるのではないかと考えた。

実践として、第6学年算数科「データの調べ方」という単元の一部で、情報モラルを学習活動の中に取り入れながら、授業を展開した。



② 学習活動の中での情報モラル教育

今回の授業では、さまざまなデータから根拠となる情報データを選択し、それらが妥当性のあるものか、自分の意見をもとに読み解いた授業展開だった。一つのデータだけでなく、いくつかのデータを根拠とした方が意見の妥当性が高まることも視野に入れ、データを読み解いていった。

自分の意見の妥当性を高めるためには、データを批判的に捉えることが大切である。それをインターネットで情報を集めることに結びつけ、批判的に情報を捉えることも大切であることを理解させた。批判的に考えることで、たくさんの情報をもとに妥当性を自分で判断できるような情報を受信する力を身に付けることができた。



自分の意見を発表するためには、複数の意見から判断



判断材料とする情報の提示

2 情報モラル講演会の様子

(1) 第1回情報モラル講演会の様子（教員対象） 令和4年9月13日

「学び合う情報モラル教育～これからの情報モラルを考える～」

講師 郡山女子大学 短期大学部 地域創成学科 准教授 山口 猛 様



第1回情報モラル講演会として、郡山女子大学短期大学部地域創成学科の山口先生から教職員を対象に、情報をつくる・発信する立場として、どんなことに注意しなければならないかについて講演していただいた。本校のホームページの記事を分析していただき、誰が見ているかわからないため、作成者の思いがねじ曲がって伝わらないように、第三者の立場になって作成することが大切であると御指導いただいた。

(2) 第2回情報モラル講演会（児童・保護者対象） 令和4年10月18日

「メディアと上手に付き合うために」

講師 郡山女子大学 短期大学部 地域創成学科 准教授 山口 猛 様



第2回情報モラル講演会として、郡山女子大学短期大学部地域創成学科の山口先生から児童と保護者を対象に講演していただいた。インターネットを使用する際、「気を付けて」と言われるが、どう気を付ければいいのかわからない・なぜ気を付けなければいけないのか分からないという児童に自分事として考えられるように、ロールプレイングゲーム形式でお話を進めていただいた。ゲーム・インターネット・スマートフォンなど便利だからこそ、メディアと上手に付き合うためには正しい知識をもち、「自分事のできる」「納得できる」「実践できる」ことが大切であると児童の現状を捉えた内容での御指導をいただいた。

3 校内での実践

(1) 全学年 教科等横断的な情報モラル教育の実施

今年度は現職教育のテーマに情報モラル教育を位置付けたため、全学年で教科等横断的な情報モラル教育を実施した。各学年の発達段階に合わせた内容を学習活動の中に取り入れた。

- 2学年は、国語科「お手紙」の授業の中で、情報のやり取りについて、手紙のほかにSNSなどの手段もあることやそれぞれのよさがあることについて触れた。
- 3学年は、学級活動(2)「すききらいなく食べよう」の授業の中で、誰が言っている情報なのか発信者のことを考え、正しい情報なのか見極めることの大切さについて触れた。
- 4学年は、国語科「ランドセルは海をこえて」の授業の中で、作成したレビューをホームページに載せるとしたら、どんなことに気を付けなければならないかという注意点について触れた。
- 5学年は、道徳科「UDって何だろう」の授業の中で、1つの資料より、いくつかの資料があることで理由付けしやすくなることについて触れた。

どの教科等においても情報を活用する場面で、情報モラル教育を取り入れるように考え実践したことで、全ての教員が授業の中に取り入れることができた。また、情報モラル教育の広がりや深まりにつなげることができた。

【情報を活用する場面】

- 検索 → 信頼性
- 作成 → 著作権
- 発表 → 思いやりなど



(2) 後期課程との合同授業の実施

義務教育学校の強みを活かし、後期課程生徒との合同授業を実施した。総合的な学習の時間「ホームページの記事を作成しよう」の授業の中で、実際に**ホームページの記事を作成し、本校ホームページに掲載すること**をねらいとした。ホームページに記事をアップするということを通して、どのようなことに気を付けて情報を発信したら、必要な情報を伝えられるかを児童・生徒同士で考え、情報の適切な発信力を養っていきたいと考えた。また、自分の発信した情報のリスクと責任についても考えさせ、主体的・批判的態度を育てるデジタル・シティズンシップ教育を実践していくための提案授業とした。

授業後、学習したことを活かし、それぞれの学年でホームページの記事を作成し、実際に掲載した。6学年では、**自分たちが発信者となりホームページの記事を作成すること**を継続している。発信者として、注意すべき点を意識することができるようになり、学校生活においても、相手への思いやりにつなげることができた。

実際に6年生が作成したホームページの記事
(郡山市立湖南小中学校ホームページより)

★【6年】民話を上手に語るために…

※ 6年生が作成した記事です。

講師の先生に来ていただき、民話を上手に語るためのポイントを教えていただきました。ポイントは、ゆっくり・はっきり・大きい声で…語るように話すことです！民話発表会まで残り少しです。教えていただいたことをいかして、頑張りたいです。

6年生にとっては最後の民話発表会になります。大切なポイントを教えていただき、ありがとうございました。



Ⅲ 成果と課題について

1 成果

○ 教科等横断的な情報モラル教育

今年度は、現職教育のテーマとし、全ての教員が指導できることを目指したことで、いつでも、どの授業の中でも情報モラル教育を実践できるように学習活動に取り入れることができた。教員全体での「**情報モラル教育の必要性**」への意識の高まりが見られ、さまざまな場面で実践を重ねることができた。

○ 後期課程との合同授業

義務教育学校だからこそできる本校の強みを活かした前期課程・後期課程の合同授業を実施することができた。9年間の義務教育段階での発達段階をふまえ、計画的・継続的な情報モラル教育の実践を深めていきたい。

○ 情報を受信・発信する力

受信者として、「**正しい情報を見極めること**」や、発信者として「**注意しなければならないこと**」を理解することができた。また、発信者の立場になったとき、相手への気遣いから、思いやりの心をもつことの大切さにも気付かせることができ、このことは日々の生活の中での人間関係づくりに大いに役立っている。

2 課題

- どの教科等の学習活動の中でも教科等横断的な情報モラル教育を実践し、研究を深めていきたい。
- 講演会などの実施により、保護者の意識も高まっているが、情報モラル教育に対する認識の差はまだまだ大きいため、今後さらに**家庭との連携**を深めていきたい。
- 考え、議論する情報モラル教育の実践に向けて、情報を発信・受信する際の各個人の思いや考え、情報の信頼性・妥当性等について話し合いを深める機会を設定していきたい。

【引用文献・参考文献】

文部科学省（2017）。「小学校学習指導要領（平成29年告示）」。

佐藤明彦（2021）。「GIGA スクール・マネジメント」.時事通信社.

稲垣忠（2020）。「探求する学びをデザインする！情報活用型プロジェクト学習ガイドブック」.明治図書.

樋口万太郎（2021）。「GIGA スクール構想で変える！1人1台端末時代の算数授業づくり」.明治図書.

樋口万太郎・若松俊介・樋口彩香.（2022）。「GIGA スクール構想で変える！1人1台端末時代の国語授業づくり（物語文）」.明治図書.

樋口万太郎・若松俊介・樋口彩香（2022）。「GIGA スクール構想で変える！1人1台端末時代の国語授業づくり（説明文）」.明治図書.